

## 第 2 学年生活科学学習指導案

日 時 平成 15 年 9 月 24 日 (水) 5 校時  
 児 童 1 年 3 組 11 名・2 年 3 組 18 名 計 29 名  
 指導者 橋 田 孝  
 場 所 2 年 3 組 教室

### 1 単元名「せんとくまつりをしよう」

### 2 単元について

本単元のねらいは、学習指導要領生活科の内容(5)の「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」を受けて、地域でお祭りが行われている由来を知り、子どもたち自身が思いを込めて自分たちのお祭りを作り上げる活動を通して、協力することの楽しさや作り上げたことの達成感を味わいながら、自分たちの生活を工夫したり、楽しくしたりし、よりよいものにするのである。自分たちのお祭りを実際に作り上げていくことで、自分の思いを持ちながら自主的に活動したり創意工夫したりする態度、異学年交流による協調性や思いやりが育ち、さらに友達との交流を楽しんだりするなど、今後の自分たちの生活をよりよいものにできると考える。

1 学期単元の「せんとくたなばたをしよう」では、1・2 年生で交流班を作り、小集団で活動した。宮古市で七夕祭りを開催しているゲストティーチャー(以下 GT)の思いに触れ、自分たちでも七夕飾りを作る活動を通して、みんなで作った七夕飾りの大きさや美しさを感じ、協力することでよりよいものができることに気付いた。しかし、七夕の由来を理解できず飾りへの思いを十分に持てずに活動していたり、協力し合ってよりよいものを作ろうとする意識が希薄だったりするなど活動に対して主体性に欠ける場面も見られた。

活動を進めるにあたっては、「計画を立てよう」の段階で宮古秋祭りの様子を VTR で見たり、実際に神輿や太鼓などに触れながら活動に対する動機付けをしていく。また、秋祭りに関わって活動している GT の話を聞き、お祭りに込められた思いや願いに関心させながら、自分たちのお祭りを楽しいものにしていくための計画を立てられるようにする。

「お祭りの準備をしよう」では、出店や会場作り、山車や神輿の準備、招待状の作成など対象を意識しながら製作活動に当たり、1・2 年生が互いに学び合ったり、教え合ったりしながら自分たちの祭りに対する思いを表現できるようにしていきたい。また、班ごとに出店などの練習をする際に、よりよいものにするための意見を出し合ったり、工夫をしたりして活動ができるようにする。

「お祭りを楽しもう」では、家の人や GT、全校児童を招待して学団でせんとくまつりを行う。掲示の工夫などをして会場の雰囲気を出し、お祭りを楽しむとともに、友達の商品のよさにも気付くようにする。

「お祭りを振り返ろう」では、活動を通して気付いたことをその後の生活に生かしていけるように視点を与えて振り返らせる。そして自分たちの地域への愛着を持ったり、生活を楽しくするための様々な行事の働きに関心したりできるようにする。

### 3 単元の目標

1 年生	2 年生
○自分たちのお祭りに関心をもって、意欲的に活動している。	○自分たちのお祭りに関心をもって、意欲的に活動している。
○分からないことを聞いたり調べたりしながら自分の思いを表現している。	○分からないことを調べたり互いに意見を出し合ったりしながら自分の思いを表現している。
○協力して作ることで、よりよいものを作り上げることができていることに気付く。	○秋祭りに込められた地域の人々の願いや思いに関心、協力することの大切さに気付く。

4 単元指導計画と評価規準（総時間数18時間）

段階	時	主な活動内容	評価規準	指導・援助
計画を立てよう	2	1 お祭りの経験を話し合ったり、実際の道具を触ったり、見たりしながら自分たちのお祭りを作ろうとする意欲を持つと共に、疑問点を見つける。	○楽しかった経験を話したり、道具に触れたりしながらお祭りへの意欲を持つことができる。【関＝観察・カード】	○楽しいおまつりの内容を話し合わせたり、秋祭りのVTRを見たり、実際に使われた道具を触ったりしながらお祭りへの意欲を持たせる。
		2 GTの話の聞いたり、質問したりしながら疑問点を解決する。	○GTに質問したりしながら疑問点を解決して、お祭りに対する思いを自分なりに持つことができる。【気＝発表・カード】	○GTへの質問やGTの話からお祭りのねらいや内容などを聞いて、お祭りに対する願いや思いを持たせる。
お祭りの準備をしよう 本時4/10	10	3 せんとくまつりの計画を立てる (1) グループでどんな祭りにしたいかを定める。 (2) グループごとに計画を立てる。	○どんなお祭りにしたいか、自分のしたいものを出し合いながら、グループで計画をまとめることができる。【関＝観察・カード】	○希望を取り、内容別のグループ編成をする。 ○自分たちの願いや思いがこもるような計画となるよう声かけを行う。
		4 お祭りの準備をする。 (1) 実物を見たり、触れたりしながら製作活動をする。 ・神輿、山車 ・出店 ・ポスター ・お金 ・招待状など (2) 出店の練習をする。 (3) 出店の手直しをする。	○自分の思いをもって、製作活動に没頭している【関＝観察】 ○作品を工夫したり、友達と相談しながら活動している。【思＝観察・つぶやき】 ○活動する中で、友達と協力して作ることよさに気付く【気＝観察・つぶやき・カード】	○お祭りのVTRや写真、道具などをいつでも見て、調べることができるような環境を設定する。 ○生活廃材などを持ち寄るよう声かけをし、集めたものは自由に使えるようにする。 ○出店が円滑に活動したり、お客さんに喜んでもらったりするために売り手と買い手に別れるようにする。
お祭りを楽しもう	3	5 会場作り 6 お祭りを楽しむ	○神輿を担いだり、売ったり買ったりしながらお祭りを楽しんでいる。【関＝観察・カード】 ○友達の作品のよいところに気付いている。【気＝観察・カード】	○会場図をもとに見通しをもって準備ができるようにする。 ○売り手、買い手の両方を体験できるよう活動時間を工夫する。
お祭りを振り返ろう	1	7 これまでの活動を振り返る。	○活動を振り返り、自分なりに工夫して作ったお祭りに満足している。【気＝発表・カード】 ○友達と協力して作り上げることよさに気付く、これからは友達と楽しく生活しようとしている。【気＝発表・カード】 ○これからの地域の行事を楽しみたいという意欲を持っている。【気＝発表・カード】	○VTRや写真でせんとくまつりを振り返り、自分たちの祭りをした喜びや達成感を味わわせる。 ○宮古の行事や他の近隣地域の行事を紹介し、関心を持てるようにする。

5 本時の指導 (8/18)

(1) 目標

【関心・意欲・態度】

・自分の思いを表現しようと意欲的に作品を作ることができる。

【思考・表現】

・商品や出店などを自分なりに工夫して作ることができる。

【気付き】

・協力することのよさに気付き、さらにグループで工夫しようとすることができる。

(2) 展開

	学習活動	期待する子どもの姿	教師の支援と評価 (◇評価)	留意点
つかむ 5	○前時までの活動の進み具合を確認し、本時の活動の見通しを持つ。	○今日の活動のめあてや自分の役割分担をグループの中で確認し合っている。	○計画カードに注目させ、今日の活動の見通しをもたせ本時の課題をつかませる。 ◇何をすればいいのかがはっきりしている。【関=発言・カード】	○前時までの作品を並べておくことで、作るものを視覚的にもとらえられるようにする。
	くふうして でみせをつくらう。			
考える・表現する 35	○グループごとの出店作り ・ヨーヨー釣り ・射的 ・輪投げ ・くじ ・スーパーボールすくい	○役割分担に沿って、自分の作りたいものを意欲的に作っている。  ○分からないことを班や周りの友達と相談したり、教え合ったりして作っている。	○全体や個人の作業を称揚することで、活動の広がりを持たせる。 ○活動に取り組むきっかけをつかむことができない児童に対しては、友達と一緒に活動することを促したり、教師と一緒に取り組み始めたりしていく。 ○子どもたちが思いや願いをより達成しながら活動できるよう、出店の写真などを掲示する。 ◇自分の思いを持って製作活動に没頭している。【関=観察・つぶやき】 ◇作品を工夫したり、友達と相談しながら活動している。【思=観察・つぶやき】	○希望した材料や置き場所を確認する。 ・カッター ・ホットボンド ・マジック ・テープ類 ・用紙類 ・輪ゴム等  ○子どもたちの活動を広げるための掲示の工夫をする。 ・出店などの写真やVTR ・実際の道具 ・本
まとめる 5	○本時の活動を振り返る。  ○次時の見通し	○カードに今日の活動の感想を記入し、発表する。  ○次の時間は何を作りたいのか見通しを持っている。	○振り返りの観点を確認しカードへの記入を支援する。 ○次時の活動につながるような内容を書いた子どもを紹介する。 ◇友達と協力することのよさに気付いている。【気=発表・カード】 ○進行状況を確認し、次時に何を作ればいいのか考えさせる。	○観点の提示 ・自分の作りたいものが作れたか。 ・作ったものにはどんな思いや工夫があるのか。 ・分からないことや難しい箇所を協力してできたか。

